

武蔵野北 高等学校 令和 7 年度（3 学年用） 第 1 期 地理歴史 科目 発展世界史

教 科： 地理歴史 科 目： 発展世界史 単位数： 6 単 位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 6 組

使用教科書：（ 詳説「世界史探究」山川出版社 ）

教科 地理歴史 の目標： 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の優位な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 【知 識 及 び 技 能】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 発展世界史 の目標： 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準			知	思	態	配 当 時
			知識	思考	態度				
1 学 期	①食料生産の開始が人類の暮らしや技術、活動を変化させ、その変化によって生活が安定し、定住するようになったこと、そして都市の出現が国家の誕生につながったことを理解する。 ②地球全域に拡散した人類は、それぞれの地域に適応した身体的特徴や習慣によって区分されているが、その区分は絶対的なものではないことに気づく。	1 文明の誕生	都市の成立や文字の使用など、古代文明に共通する歴史的特質を理解している。	壁画や粘土板などの資料をもとに、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し表現している。	文明の誕生について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	①メソポタミアとエジプトの地理的特質を把握し、大河流域での灌漑農業の展開から古代文明が形成された推移を理解する。 ②メソポタミア文明とエジプト文明の共通点と相違点を把握し、古代文明の特質を理解する。 ③東地中海一帯の地理的特質を把握し、エーゲ文明の展開とエーゲ文明のもつ意義を理解する。	2 古代オリエント文明とその周辺	オリエントの大半が乾燥地帯であること、そのなかで大河流域のメソポタミアとエジプトで灌漑農業をもとにいち早く文明化したことを理解している。	ハンムラビ法典や『旧約聖書』などの資料をもとに、当時の社会の特徴や世界の歴史に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。	オリエント文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	①南アジアの地理的特質を理解し、古代文明が成立した背景、独自の宗教・社会制度などが形成された経緯を理解する。 ②東南アジアやオセアニアの地理的特質を理解し、インドシナ半島から太平洋の島々に人類が広がっていった様子を理解する。	3 南アジアの古代文明	南アジアが南北に大きく二分されること、それぞれの風土に適合した生活が古くから営まれていたことを理解している。	ヴァルナ制やジャーティ集団の成立をもとに、アーリヤ人社会に富や地位の差が生まれていった背景や原因を考察し表現している。	南アジアの古代文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	①ユーラシア大陸東部の地理的特質を理解し、モンスーン気候が古代文明の成立にどのような影響を与えたのかを理解する。 ②黄河と長江の流域ではそれぞれ農耕文明が形成され、新石器文化が発達したことを理解する。 ③黄河流域で初めて王朝国家が形成され、青銅器文化が高度に発達して、そこから殷・周の古代王朝が生まれたことに気づく。	4 中国の古代文明	東アジア各地の風土が、それぞれの地で多様な生業とそれに基づく先史文化を生み出したこと、各地で人々の移動や交流がおこなわれたことを理解している。	青銅器や獣骨など考古学的資料や『春秋左氏伝』などの資料をもとに、当時の政治や支配のあり方を多面的・多角的に考察し表現している。	中国の古代文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	①アフリカの地理的特質を理解し、古代アフリカで形成された古代国家の生活・文化・社会について理解する。 ②南北アメリカの地理的特質を理解し、独特の農耕文化が形成された背景と古代国家の特徴を理解する。	5 南北アメリカ文明	南北に長く広がるアメリカ大陸の各地で、それぞれの地域の環境に適応した文化・文明が発展したことを理解している。	南北アメリカ文明に共通する特徴、とくにユーラシアやアフリカの古代文明とは異なるものを多面的・多角的に考察し表現している。	南北アメリカ文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	①中央ユーラシアの人々が営んでいた生活と風土との関係を理解する。 ②騎馬遊牧民が強大な国家を築くことができた理由を多面的・多角的に考察し表現している。 ③遊牧国家の興亡がユーラシア大陸の東西にもたらした変動を理解する。 ④オアシス民と遊牧民の関係を多面的・多角的に考察し表現する。	1 中央ユーラシア——草原とオアシスの世界	中央ユーラシアの厳しい環境に適応した遊牧民やオアシス民の生活のありさまや、彼らの周辺の諸勢力との関係を理解している。	壁画や粘土板などの資料をもとに、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し表現している。	中央ユーラシアの動向について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2

1 学 期	①東アジアから北方ユーラシアにかけての地域で、農耕民と遊牧民がどのような関係を構築してきたのかを理解する。 ②遊牧国家と農耕国家の支配体制を比較し、遊牧国家では支配者の指導力、統治能力が国家存亡に直結していたことを理解する。 ③スキタイや匈奴による遊牧国家の形成と拡大について理解する。	2 秦・漢帝国	秦・漢といった統一国家の支配体制について、それまでの春秋・戦国時代と比較したうえで理解している。	兵馬俑や青銅貨幣など考古学的資料や『塩鉄論』禁耕などの資料をもとに、秦・漢の時代に生じた地域間の結びつきの変化や、統一国家の出現が社会や文化に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。	秦・漢帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	①遊牧民族の動きと魏晋南北朝の動乱との関係について理解する。 ②魏晋南北朝時代に仏教や道教が力を持ったようになった要因や背景を、多面的・多角的に考察し表現する。 ③魏晋南北朝時代の中国の情勢が、朝鮮や日本に与えた影響について理解する。	3 中国の動乱と変容	魏晋南北朝の動乱がどのように展開したのかについて、遊牧民族との関わりもふまえたうえで理解している。	「女史箴図」などの図像資料や『顔氏家訓』などの資料をもとに、魏晋南北朝時代の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。	魏晋南北朝の動乱について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
1 学 期	①隋唐帝国が遊牧国家や西アジアとの関係を背景として成立し、それまでの秦漢帝国と遊牧民の要素が融合した支配体制を構築したことを理解する。 ②唐による広域支配と東アジア世界の隣接諸国家との関係が安定するなかで、唐の政治制度や文化が広く取り入れられ、日本や新羅、渤海などで国家体制の整備が進んだことを理解する。 ③唐の支配体制が8世紀以降、政治制度や税制度などの面で変化した背景を理解する。	4 東アジア文化圏の形成	南アジアで生まれたさまざまな宗教が、南アジアの社会や周辺諸地域へ与えた影響を理解している。	壁画などの図像資料や『旧唐書』輿服志などの資料をもとに、隋・唐の社会の特徴や近隣諸国への影響を多面的・多角的に考察し表現している。	東アジア文化圏の形成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	①仏教やジャイナ教などの新たな宗教に共通する点について理解する。 ②南アジア最初の統一王朝であるマウリヤ朝のもとでの仏教の発展について理解する。 ③クシャーナ朝と周辺諸地域との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ④「海の道」の交易における南インドの役割を多面的・多角的に考察し表現する。	1 仏教の成立と南アジアの統一国家	南アジアで生まれたさまざまな宗教が、南アジアの社会や周辺諸地域へ与えた影響を理解している。	インド洋航海図（地図）や『エリュトラー海案内記』などの資料をもとに、インド洋交易の広がりや多面的・多角的に考察し表現している。	南アジアで生まれた諸宗教について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	①グプタ朝における宗教や文化の展開を理解する。 ②8～10世紀の諸勢力が割拠した時代における各地の政権の政策を理解する。 ③ヒンドゥー教が南アジアの社会に根づいていった背景を多面的・多角的に考察し表現する。	2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着	インド古典文化の黄金期とされるグプタ朝において、文化がどのように展開したのかを理解している。	それまで仏教やジャイナ教が盛んだったことをふまえたうえで、ヒンドゥー教が社会に根づいていった背景を多面的・多角的に考察し表現している。	インド古典文化とヒンドゥー教について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	①東南アジアの風土について他のアジアや日本と比較したうえで理解する。 ②東南アジアと南アジア・中国との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ③東南アジアにおける国家形成の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	3 東南アジア世界の形成と展開	東南アジアの大陸部と諸島部において、どのように国家が形成されたのかを理解している。	東南アジアの風土や地形をふまえたうえで、南アジアや中国との関係およびその変遷を多面的・多角的に考察し表現している。	東南アジアの諸国家について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	定期考査					○	○		1
1 学 期	①アケメネス朝が広大な領域に中央集権的支配を築ことができた背景や要因を理解している。 ②パルティアとササン朝の繁栄の背景や要因を理解する。 ③パルティアとササン朝が東西の文明の間で担った役割を多面的・多角的に考察し表現する。	1 イラン諸国家の興亡とイラン文明	アケメネス朝、パルティア、ササン朝といったイラン諸国家がそれぞれどのように興亡したのかを理解している。	ササン朝と法隆寺の「獅子狩」図案などの資料をもとに、イラン文明が世界の諸地域に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。	イラン文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	①ボリスの特徴およびそこでの人々の生活について、オリエントの都市国家と比較したうえで理解する。 ②スパルタが軍国主義をしいた理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ③民主政発達の経緯および現代の民主主義との相違点について理解する。 ④ギリシアの諸ボリスがマケドニアに敗れた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤ヘレニズム時代の歴史的意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥ギリシア文明が近代ヨーロッパにもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。	2 ギリシア人の都市国家	アテネにおいてどのような経緯で民主政が出現したのか、またギリシア文化にはどのような特徴があるのかを理解している。	オストラコンなどの考古学的資料や「ペリクレスの演説」などの資料をもとに、ギリシアの人の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。	古代ギリシアについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	①都市国家から出発したローマが、共和政の体制を整備し、平民主体の軍隊による征服戦争によって、地中海に広がる大帝国に成長したことを理解する。 ②ローマが帝国として拡大していくなかで、平民たちの獲得した権利、共和政への関わり方、そして平民が没落していった背景を理解する。	3 ローマと地中海支配	アテネにおいてどのような経緯で民主政が出現したのか、またギリシア文化にはどのような特徴があるのかを理解している。	モザイク画などの図像資料や「神皇アウグストゥス業績録」などの資料をもとに、ローマが地中海世界を統一し、それを維持できた理由を多面的・多角的に考察し表現している。	古代ローマについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2

①キリスト教の成立の経緯を理解している。 ②ローマ帝国によるキリスト教への対応を多面的・多角的に考察し表現する。	4 キリスト教の成立と発展	勢力を拡大させていたキリスト教をローマ帝国がどのように利用しようとしたのかを理解している。	当時の地中海世界の状況をふまえたうえで、キリスト教が急速に広がった理由を多面的・多角的に考察し表現している。	キリスト教の成立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
①アラブ＝ムスリム軍による大征服の展開を理解する。 ②ウマイヤ朝の領域的な広がりとその支配の特徴を理解する。 ③アッバース朝成立の背景とその統治の特徴を理解する。 ④イスラーム文化の成立の経緯を理解し、またその特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤イスラーム政権の多極化が社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立	イスラーム教がどのように成立し、短期間で勢力を拡大していったのかを理解している。	イスラーム政権の拡大を示す地図やアラベスクなどの図像資料などをもとに、イスラーム教の成立が西アジアや北アフリカの社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。	イスラーム教の成立と拡大について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
①ヨーロッパの地理的特徴（河川・山脈・諸地域）とその歴史への影響について理解する。 ②西ヨーロッパにおけるゲルマン部族諸王権の分立とカトリックの伸長、フランク王国とカトリックの関係の開始について確認、理解する。 ③ユスティニアヌス1世時代の東ローマ帝国の拡大について理解する。	2 ヨーロッパ世界の形成	西ヨーロッパと東ヨーロッパがそれぞれどのようにして独自の世界を形づくっていったのかを理解している。	荘園の構造を示す概念図や『ガルベール＝ド＝ブリュージュの日記』などの資料をもとに、西ヨーロッパに成立した封建社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。	ヨーロッパ世界の形成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
①イスラーム化が中央アジアにもたらした変化について理解している。 ②南アジアにおいてイスラーム教が受け入れられていった経緯を理解している。 ③東南アジアにおいてイスラーム化が進んだ背景について考察し表現している。 ④アフリカにおいてイスラーム化が進んだ要因を考察し表現している。	1 イスラーム教の諸地域への伝播	中央アジア・南アジア・東南アジア・アフリカの各地でどのようにイスラーム化が進んだのかを理解している。	『トルコ語・アラビア語辞典』序文などの資料をもとに、イスラーム教の伝播・拡大においてトルコ人の果たした役割を多面的・多角的に考察し表現している。	イスラーム教の各地への伝播について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
①トルコ人の進出が西アジアにもたらした変化について考察し表現している。 ②十字軍やモンゴルの進出が西アジアにもたらした影響について考察し表現している。 ③マムルーク朝のもとでのカイロの繁栄がどのように実現したのか理解している。 ④イベリア半島におけるイスラーム勢力の興亡について理解している。	2 西アジアの動向	アッバース朝衰退後の西アジアにおいて、政治的統一は失われたが、経済・文化の交流を通じてイスラーム教徒（ムスリム）の連帯が維持されたことを理解している。	西ヨーロッパやイスラーム勢力との関係をふまえたうえで、ビザンツ帝国の衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現している。	東ヨーロッパ世界について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
①中世の西ヨーロッパにおいてローマ＝カトリック教会が普遍的な権威を持つにいたった背景を理解する。 ②十字軍の遠征の経緯を理解し、それが社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③西ヨーロッパで商業が盛んになった理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ④中世の都市が獲得した政治的地位や、そこでの人々の暮らしについて理解する。	1 西ヨーロッパの封建社会とその展開	中世の西ヨーロッパで発達した商業の活動状況とその特徴について、従来との比較をふまえて理解している。	西ヨーロッパやイスラーム勢力との関係をふまえたうえで、ビザンツ帝国の衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現している。	東ヨーロッパ世界について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
①ビザンツ帝国の衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ②ビザンツ文化が果たした世界史的な意義について理解する。 ③スラヴ人が各地域で自立していった経緯を理解する。	2 東ヨーロッパ世界の展開	ビザンツ帝国の衰退の過程と、その周辺のスラヴ人および非スラヴ人の動向について理解している。	西ヨーロッパやイスラーム勢力との関係をふまえたうえで、ビザンツ帝国の衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現している。	東ヨーロッパ世界について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
①封建社会が解体に向かった背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ②教皇権の衰退と王権の伸張の関係について理解する。 ③各国における、身分制議会の成立と王権の伸張の関係を理解する。 ④百年戦争によるイギリスとフランスの変容を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤スペインで国王による中央集権化が早く進んだのはなぜか理解する。 ⑥神聖ローマ帝国で中央集権が進まなかった要因を多面的・多角的に考察し表現する。	3 西ヨーロッパ世界の変容	封建社会の衰退と教皇権の衰退の過程および中央集権国家に向けた西ヨーロッパ各国の動きを理解している。	大憲章や金印勅書などの資料をもとに、中央集権国家の形成に向けた各国の動きの共通点と相違点を多面的・多角的に考察し表現している。	西ヨーロッパ世界の変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
①中世の西ヨーロッパにおいてキリスト教が果たした文化的役割を理解する。 ②西ヨーロッパにおける大学の成立過程を理解する。 ③中世の西ヨーロッパの美術や文学と、その時代の社会との関係を多面的・多角的に考察し表現する。	4 西ヨーロッパの中世文化	中世の西ヨーロッパの文化について、キリスト教の影響が大きかったことを理解している。	大聖堂の写真や大学の講義風景を描いた図像資料などをもとに、中世の西ヨーロッパの文化的な特徴を多面的・多角的に考察し表現している。	中世の西ヨーロッパの文化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2

1 学 期	①10世紀前半に東アジアで政権の交替があいついだ背景や、そこで成立した諸国の共通点を理解する。 ②宋の対外関係の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ③宋における社会や経済の発展の様子を理解する。 ④宋代の文化の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	1 アジア諸地域の自立化と宋	10～12世紀の東アジアの情勢について、東アジア内の交流と再編を中心に理解している。	「清明上河図」などの図像資料や莊綽『鷄肋編』などの資料をもとに、宋代の経済発展が社会に引きおこした変化を多面的・多角的に考察し表現している。	10～12世紀の東アジアについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出し、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	①モンゴル帝国が成立した背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ②モンゴル帝国による支配が東アジアにおよぼした影響について理解する。 ③モンゴル帝国時代の東西交流の新しさを多面的・多角的に考察し表現する。 ④モンゴル帝国解体の要因を理解する。 ⑤ティムール朝がモンゴル帝国から受け継いだものを多面的・多角的に考察し表現する。	2 モンゴルの大帝国	モンゴル帝国がどのように成立し、解体したのか、そして帝国の支配は社会にどのような影響を与えたのかを理解している。	モンゴル帝国の最大領域を示す地図や「混一疆理歴代国都之図」などの図像資料をもとに、モンゴル帝国の成立世界的な意義を多面的・多角的に考察し表現している。	モンゴル帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	考查					○	○		1
	①オスマン朝支配下には多様なエスニティの民族がいたが、柔軟な統治体制と官僚制を整備することでこれに対応したことを理解する。 ②オスマン朝の軍勢力はティマール制を基盤とするシパーヒーが主体であったが、デヴシルメ制によって集められたイエニチェリがそれにかわっていったことを理解する。	1 オスマン帝国とサファヴィー朝	「世界の一体化」が始まった時期のアジアにおいて、どのような動きがあったのかを理解している。	ヴァルナ制やジャーティ集団の成立をもとに、アーリヤ人社会に富や地位の差が生まれていった背景や原因を考察し表現している。	南アジアの古代文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	①ムガル帝国の基礎が築かれた経緯を理解する。 ②ムガル帝国におけるヒンドゥー教徒とイスラーム教徒の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ③ムガル帝国の衰退の背景や要因を多面的・多角的に考察し表現する。	2 ムガル帝国の興隆	ムガル帝国において非イスラーム教徒に対する施策がどのように変化したのかを理解している。	ムガル帝国時代の細密画などの図像資料や領域を示す地図などをもとに、ムガル帝国の興隆と衰退が南アジアに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。	ムガル帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	①清朝の領土に組み込まれた民族と、彼らがどのように統治されていたかを理解する。 ②清代における周辺諸国と中国との関係について、明代と比較したうえで多面的・多角的に考察し表現する。 ③漢人の社会や文化に対して清朝がどのような態度をとったのかを理解する。	3 清代の中国と隣接諸地域	清朝の基礎が築かれた経緯や清代の政治と社会の特徴および周辺諸国との関係について理解している。	皇帝を描いた図像資料や『康熙帝伝』などの資料をもとに、清代の皇帝と従来の中国王朝の皇帝との違いを多面的・多角的に考察し表現している。	清代の中国と隣接諸地域について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	①ルネサンスの担い手や彼らの動機について理解する。 ②ルネサンスを支えた精神の特徴を理解し、それが後世に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③多方面におよぶルネサンスの成果が後世に与えた影響を理解する。	1 ルネサンス	新しい宗派の成立過程やその後のヨーロッパの宗教分布を理解している。	「九十五カ条の論題」や『キリスト者の自由』などの資料をもとに、宗教改革の動きが広まった要因を多面的・多角的に考察し表現している。	宗教改革について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	①それまでの教会改革の試みと16世紀の宗教改革の違いを多面的・多角的に考察し表現する。 ②カルヴァンの教えの特徴やイギリス国教会の成立の意義を理解する。 ③カトリック改革が持つ世界史的な意義を多面的・多角的に考察し表現する。	2 宗教改革	新しい宗派の成立過程やその後のヨーロッパの宗教分布を理解している。	「九十五カ条の論題」や『キリスト者の自由』などの資料をもとに、宗教改革の動きが広まった要因を多面的・多角的に考察し表現している。	宗教改革について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	①主権国家体制の成立の経緯を多面的・多角的に考察し表現する。 ②16世紀後半のスペイン・イギリス・フランスの関係を理解する。 ③アウクスブルクの和議とウェストファリア条約の異なる点を理解する。	3 主権国家体制の成立	主権国家および主権国家体制の成立について、それまでのヨーロッパの状況と比較したうえで理解している。	ウェストファリア条約の内容や当時の戦争の様子を示す図像資料をもとに、主権国家体制の成立と戦争の関係を多面的・多角的に考察し表現している。	主権国家体制の成立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	①17世紀におけるオランダの経済的な覇権獲得および衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ②17世紀における2つのイギリスの革命について、国際的な状況もふまえて理解する。 ③近世フランスの強みと課題を多面的・多角的に考察し表現する。 ④イギリスとフランスの覇権争いがグローバルな戦いになった背景を理解する。	4 オランダ・イギリス・フランスの台頭	オランダ・イギリス・フランスがそれぞれ持った有利な点や課題を理解している。	覇権争いの経過や「権利の章典」などの資料をもとに、イギリスが覇権を握るに至った要因を多面的・多角的に考察し表現している。	オランダ・イギリス・フランスの覇権争いについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	①主権国家体制においてポーランドとスウェーデンが占めた位置を理解する。 ②ロシアが主権国家体制に参入していった経緯を理解する。 ③プロイセンとオーストリアの関係の推移を多面的・多角的に考察し表現する。 ④啓蒙専制主義の特徴を理解する。	5 北欧・東欧の動向	北欧・東欧の各国の関係の推移や、それぞれにおける改革の内容を理解している。	ロシア・プロイセン・オーストリアの状況を比較したうえで、啓蒙専制主義による改革が各国におよぼした影響を多面的・多角的に考察し表現している。	北欧・東欧の動向について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5

①科学革命の成果について、自然法則の発見以外にも着目して理解する。 ②科学革命がヨーロッパ人に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③従来の学知の展開と比較したうえで、「実用の学」としての啓蒙思想の意義を理解する。	6 科学革命と啓蒙思想	科学革命と呼ばれる一連の変化がどのような背景で起こったのかを理解している。	ルネサンスとの比較をふまえて、科学革命が社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。	科学革命と啓蒙思想について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出し、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
①海外貿易が近世ヨーロッパ経済の動向に与えた影響を理解する。 ②イギリス産業革命が世界経済や社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③16世紀に始まった「世界の一体化」とイギリス産業革命との関係について理解する。	1 産業革命	産業革命が18世紀後半のイギリスから始まった背景や技術革新の展開を理解している。	当時の工場の様子を描いた図像資料や都市の人口を示す統計をもとに、産業革命が社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。	イギリス産業革命について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出し、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
①北米大陸に建設されたヨーロッパ諸国の植民地の地理的分布とその推移を理解する。 ②独立直後と今日のアメリカ合衆国を比較し、共通点と相違点を理解する。 ③アメリカ合衆国の独立がヨーロッパ諸国に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	2 アメリカ合衆国の独立と発展	アメリカ合衆国がどのような歴史的経緯をたどって独立したのかを理解している。	アメリカ独立宣言や「権利の章典」（第11章4節）などの資料をもとに、アメリカ合衆国独立の独自性を多面的・多角的に考察し表現している。	アメリカ合衆国の独立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
①革命中のフランス国家体制の変遷や革命が諸外国に与えた影響を理解する。 ②人権宣言とアメリカ独立宣言を比較し、共通点と相違点を理解する。 ②ナポレオンの支配に対する人々の反応を多面的・多角的に考察し表現する。	3 フランス革命とナポレオンの支配	フランス革命が起こった要因やナポレオンが台頭した背景を理解している。	「旧体制」の風刺画などの図像資料や人権宣言などの資料をもとに、フランス革命において「国民」を主役とする社会が創出されたことについて、多面的・多角的に考察し表現している。	フランス革命とナポレオンについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
①ハイチ革命の特殊性について、環大西洋革命の他の事例と比較したうえで理解する。 ②中南米諸国の独立運動に共通する点を理解する。 ③中南米諸国の独立運動とヨーロッパ情勢との関係を多面的・多角的に考察し表現する。	4 中南米諸国の独立	中南米諸国の独立がどのような経緯をたどって実現したのかを理解している。	中南米諸国の独立年を示す地図などをもとに、ヨーロッパ情勢をふまえたうえで、短期間に多くの独立が達成された要因を多面的・多角的に考察し表現している。	中南米諸国の独立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
①ウィーン会議の参加者たちがどのような国際秩序をめざしていたかを理解する。 ②ウィーン体制を動揺させた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ③19世紀イギリスの政治変革の特徴について、大陸諸国と比較したうえで理解する。 ④イギリス・フランス・ドイツにおける社会主義思想をそれぞれ比較したうえで理解する。 ⑤1848年革命の展開と影響について、ヨーロッパ内の地域差に着目して多面的・多角的に考察し表現する。	1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動	19世紀前半のヨーロッパ情勢がどのように推移したのかを、ウィーン体制や1848年革命、さまざまな主義主張の特徴とあわせて理解している。	ウィーン会議後のヨーロッパを示す地図や会議を風刺した図像資料などをもとに、ウィーン会議がヨーロッパ各地の人々に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。	ウィーン体制について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
①東方問題の語の意味を確認したうえで19世紀のオスマン朝をめぐるヨーロッパ諸国の関係を整理する。クリミア戦争の原因と経過、国際関係に対する戦争の影響について理解する。 ②イタリアとドイツの統一の経過について、背景や19世紀初めからの統一への動き、当時の国際関係を視野に入れつつ理解する。 ③19世紀における自然科学や人文社会科学、芸術の発達について、同一の時代的背景の文脈で理解する。個々の科学者や芸術家の達成した成果について整理する。	2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成	19世紀後半のヨーロッパ情勢がどのように推移したのかを、背景や各国の共通点・相違点もふまえて理解している。	鉄道距離の推移を示す統計やイタリアとドイツの統一を示す地図などをもとに、19世紀後半にヨーロッパの再編成が進んだ背景を多面的・多角的に考察し表現している。	19世紀後半のヨーロッパの再編成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
①領土拡大がアメリカ社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②南北戦争において北部が勝利した要因を理解する。 ③アメリカ合衆国の歴史において移民が持つ意味を多面的・多角的に考察し表現する。	3 アメリカ合衆国の発展	南北戦争につながったアメリカ合衆国内の対立構造やその後の展開を理解している。	アメリカ合衆国の領土拡大を示す地図や大陸横断鉄道開通の写真などの図像資料をもとに、アメリカ合衆国の急速な発展の要因を多面的・多角的に考察し表現している。	アメリカ合衆国の発展について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
考查					○	○		1
①19世紀欧米文化における担い手や展開された場（空間）の推移を理解する。 ②国民文化と国民国家形成との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ③近代諸科学の発展の要因とその成果が広まった背景を理解する。 ④大都市文化が都市の景観に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄	19世紀欧米文化の展開と近代諸科学の発展の経緯を理解している。	19世紀欧米文化のさまざまな事例をもとに、この時期の文化と現代の文化とのつながりを多面的・多角的に考察し表現している。	19世紀欧米の文化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5

2 学 期	①オスマン朝では、青年トルコ人による立憲革命を経て立憲政治が始まったことを理解する。バン＝トルコ主義が、のちのトルコ共和国に引き継がれたことを理解する。 ②ガージャール朝のイランで、西欧の資本導入による近代化が進められる一方、経済的利権をイギリスに譲渡するなどしたため、政府に反発する民族運動がおこったことを理解する。 ③インドではインド人エリート層を中心に親英的なインド国民会議が設立されたが、ベンガル分割令公布を機に、反英民族運動を指導するようになったことを理解する。 ④東南アジアでは、欧米諸国の植民地支配のもとで留学生や現地人官吏が増加し、民族運動の担い手となっていくことを理解する。 ⑤日清戦争後、列強による中国分割が本格化したことを理解する。清朝では、康有為らを中心とする変法がおこなわれたが、戊戌の政変で失敗に終わったことを理解する。 ⑥朝鮮をめぐる対立から日露戦争がおこり、戦後日本の朝鮮進出が進んで1910年の韓国併合に至ったことを理解する。 ⑦19世紀末から孫文らによる革命運動がおこっていたことを理解する。1911年の辛亥革命で清朝が滅亡し中華民国が成立したが、袁世凱の独裁と軍閥の分立・抗争状態になったことを理解する。	1 西アジア地域の変容	オスマン帝国・イラン・アフガニスタンにおける動揺や改革の推移を、ヨーロッパ列強との関係ともあわせて理解している。	マムルークの一扫を表した図像資料やオスマン帝国憲法などの資料をもとに、この時期のアジア各地での変化や改革について多面的・多角的に考察し表現している。	西アジアの変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	①ヨーロッパ各国の東インド会社が南アジアでおこなった活動の状況を理解する。 ②イギリス東インド会社の機能の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ③東インド会社の統治と比較したうえで、イギリスによるインドの直接統治の特徴を理解する。 ④東南アジアの植民地化の経緯を理解する。 ⑤タイが植民地化されなかった要因を多面的・多角的に考察し表現する。	2 南アジア・東南アジアの植民地化	ヨーロッパ各国による南アジアと東南アジアの植民地化の経緯を理解している。	東南アジアの植民地化の地図やゴムのプランテーションを示した図像資料をもとに、ヨーロッパ各国の進出の経緯をふまえ、南アジアと東南アジアにおける植民地化と世界経済の関係を多面的・多角的に考察し表現している。	南アジア・東南アジアの植民地化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	定期考査					○	○		1
	①清朝の危機の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ②中国の開港の背景および開港の進展の経緯を理解する。 ③清朝による国内秩序の再建の試みについて、その成果と課題を理解する。 ④東アジア各地の開港および貿易の拡大がもたらした影響を理解する。 ⑤欧米諸国の進出と日本の台頭が東アジア諸国間の関係に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	3 東アジアの激動	欧米諸国の進出の経緯と東アジア諸国の改革の試みの成果や課題を理解している。	文字資料「マカートニーの1794年1月の日記」やアヘン戦争を描いた図像資料、東アジアの開港場を示した地図などをもとに、この時期の東アジア国際秩序の変容について多面的・多角的に考察し表現している。	東アジアの激動について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	①新しく生まれた電気・化学製品が人々の日常生活に与えた影響を理解する。 ②帝国主義の支配を受けた地域における社会や文化の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ③各列強が抱えていた国内事情とその課題を理解する。 ④この時期に国際労働運動が再燃した背景とその特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	1 第2次産業革命と帝国主義	第2次産業革命が社会に与えた影響や帝国主義時代の欧米列強の国内情勢および植民地拡大の経緯を理解している。	国際情勢を風刺した図像資料や「白人の責務」などの資料をもとに、欧米列強が植民地や勢力圏の拡大を争った背景を多面的・多角的に考察し表現している。	第2次産業革命と帝国主義について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	①列強の植民地化によるアフリカの社会や文化の変容を多面的・多角的に考察し表現する。 ②列強による太平洋地域の植民地化の経緯を理解する。 ③独立後のブラジル・アルゼンチン・メキシコがたどった道を比較し、共通点と相違点を理解する。 ④20世紀初頭における列強体制の枠組みの変化を多面的・多角的に考察し表現する。	2 列強の世界分割と列強体制の二分化	列強による世界分割がどのように進められたかや列強体制の変化について理解している。	列強の植民地・勢力圏を示した地図や帝国主義を風刺した図像資料をもとに、列強による世界分割が各地に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。	列強の世界分割について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	定期考査					○	○		1
	①日清戦争と日露戦争が中国および東アジアに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②改革をおこなったにもかかわらず清朝が倒れた原因を理解する。 ③インドにおける民族運動の社会的背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ④東南アジア各地の民族運動に共通する傾向を理解する。 ⑤西アジア各地における民族運動の共通点を理解する。	3 アジア諸国の変革と民族運動	アジア各地における改革や民族運動がどのように展開し、いかなる結果をもたらしたのかを理解している。	列強の植民地・勢力圏を示した地図や帝国主義を風刺した図像資料をもとに、列強による世界分割が各地に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。	列強の世界分割について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5

3 学期	①バルカン半島で緊張が高まった背景を理解する。 ②歴史上はじめての世界大戦が勃発した原因を多面的・多角的に考察し表現する。 ③戦時外交および総力戦の特徴を理解する。 ④第一次世界大戦がもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤ロシア革命の経緯を理解し、その歴史的意義を多面的・多角的に考察し表現する。	1 第一次世界大戦とロシア革命	第一次世界大戦後に形成された国際秩序の内容やその特徴、その後の国際関係の変化について理解している。	塹壕戦やさまざまな新兵器、軍需工場で働く女性の図などの第一次世界大戦に関する図像資料および「平和に関する布告」などの資料をもとに、第一次世界大戦とロシア革命が世界にもたらした変容を多面的・多角的に考察し表現している。	第一次世界大戦とロシア革命について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	①第一次世界大戦後の新たな国際秩序が形成された経緯を理解する。 ②西欧諸国における第一次世界大戦後の展開を多面的・多角的に考察し表現する。 ③国際協調をめぐる1920年代の前半と後半の変化を理解する。 ④イタリアにおけるファシズム体制成立の背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤東欧・バルカン半島の新興国が直面した困難と、それに対応すべく築かれた体制を理解する。 ⑥1920年代のソ連とアメリカのそれぞれの国内情勢を理解する。	2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国	第一次世界大戦後に形成された国際秩序の内容やその特徴、その後の国際関係の変化について理解している。	各国の国内情勢を写した図像資料や「十四カ条」などの資料をもとに、1920年代の欧米各国における変容を多面的・多角的に考察し表現している。	ヴェルサイユ体制下の欧米諸国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	①世界恐慌が起こった背景やその影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②ニューディール政策およびブロック経済の特徴や世界経済への影響を理解する。 ③ナチス＝ドイツの体制が成立する経緯とその政策内容を理解する。 ④ソ連の計画経済が資本主義諸国に与えた影響を理解する。 ⑤日本と中国が全面戦争へいたった背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥ファシズム諸国の攻勢が国際政治に与えた影響を理解する。	3 アジア・アフリカ地域の民族運動	第一次世界大戦がアジア・アフリカの各地に与えた影響を理解する。	民族運動の様子を写した図像資料や胡適「文学革命についての書簡」などの資料をもとに、アジア・アフリカ各地の民族運動の特徴や共通性を多面的・多角的に考察し表現している。	アジア・アフリカ地域の民族運動について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	定期考査					○	○		1
	①世界恐慌が起こった背景やその影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②ニューディール政策およびブロック経済の特徴や世界経済への影響を理解する。 ③ナチス＝ドイツの体制が成立する経緯とその政策内容を理解する。 ④ソ連の計画経済が資本主義諸国に与えた影響を理解する。 ⑤日本と中国が全面戦争へいたった背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥ファシズム諸国の攻勢が国際政治に与えた影響を理解する。	1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊	第一次世界大戦とロシア革命がどのように展開したのかを、戦時外交や総力戦の特徴、大戦のもたらした結果などとあわせて理解している。	政治的なポスターなどの図像資料や経済的な変化を示す統計資料をもとに世界恐慌下の各国における変容を、またナチ党の全国党大会の図像資料や㊦介石「盧溝橋事件に関する廬山談話」の文字資料などをもとにファシズム諸国や日本の動きについて、多面的・多角的に考察し表現している。	世界恐慌やヴェルサイユ体制の崩壊について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	①開戦直前における各国のナチス＝ドイツへの対応を多面的・多角的に考察し表現する。 ②ヨーロッパにおける第二次世界大戦の展開を理解する。 ③独ソ戦および太平洋戦争の開戦が第二次世界大戦にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ④第二次世界大戦の終戦までの経緯を理解する。 ⑤第一次世界大戦と比較したうえで、第二次世界大戦の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	2 第二次世界大戦	第二次世界大戦の対立の構図と勃発から終戦までの経緯を理解する。	戦場を写した図像資料や「大西洋憲章」などの資料をもとに、第二次世界大戦の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。	第二次世界大戦について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	定期考査					○	○		1
	国公立や難関私大の過去問などを演習する。	演習問題	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	○	○	○	23